
旋律を奏でる蒼天

悍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旋律を奏でる蒼天

【Nコード】

N4102H

【作者名】

悍

【あらすじ】

主人公のサクセスストーリーの始まり！！

(前書き)

ちよつと確認

主人公のサクセスストーリーの始まり！！

第6章

任務

任務って言われても今のこんなモチベーションじゃやる気でねえよ。

今日もまた太陽が昇った。

時間はちょうど正午、俺は今さっき目が覚めた。

昨日のトーナメントの疲れを癒す為今日は1日自由時間になったのだ。

妹は学園へと帰った色々と用事があるみたいらしい。

「…ふぁ」

思わず欠伸をした。

他の皆もきつと俺と同じように今ぐらいに起きてるだろうな。

ようやく長い数日が終わったって感じた。

夢みたいだったが、やはり部屋に俺以外のもう一人…すなわち相棒の姿はない……

もしかしたらと思った希望もあっさりと崩れた。

手術は終わったのか…？

考えていたら入り口のドアに一通の手紙が挟んであるのに気づいた。

「……なんだ？」

呟きながら手紙の内容を読む。

へ本日午後6時に第4会議室へと来てくれ。
詳細はその時報告する。▽

シャルム・ゼブラ

「6時ね……」

読み終えた手紙をゴミ箱へと捨てて俺は部屋を出た。
行き先はとりあえず食堂、腹が減ったしな。

食堂へとついたが思ったより人もいなく静かだった。
まあ賑やか過ぎるよりは幾分かマシだな。

「何にするんだい？」

いつもの食堂のおばあちゃんが俺に聞いてきた。
最初定食にしようと思ったんだがふとあいつの姿が思い浮かび俺は
あいつの好きな馬丼を頼んでみた。

「あいよ、そういや今日は友達と一緒にじゃないのかい？」

おばあちゃんの言葉に心がズキッときた。
別におばあちゃんには悪気はないんだ…よな？

俺はどう説明したらいいかわからなかった。
まさか

「刺されて今入院してます」なんて言えない。

困った……

だがおばあちゃんはそれ以上は追求せず出来上がった馬丼を俺に渡し
「冷めない内に食べな」と言って厨房へと消えて行った。

俺は適当なテーブルに腰を掛けて馬丼を食べてみた。

「…………上手いじゃねえか…………」

あいつが毎回これを食べる理由もわかる。
もっと早くから食べたら良かったな。

マイペースに食べていると食堂の入り口から聞き覚えのある声が聞
こえてきた。

「ああ、腹減った」

「1日自由って最高」

先に喋りだしたのがリユークで後がフラドだった。

二人はそのまま話をしだす。

聞く気はないがいかなせん食堂が今日は静かだからどうしても聞こえてくる。

「しかし昨日のあれには驚いたぜ」

「だな、てか昨日はハプニングの連続だ」

リユークにファラドは頷きながら会話が進む。

やはり話題は昨日のことばかりなんだな。

食堂へ来る途中もそんな話題ばかりが飛び交ってたからな。

ここでリユークの発言に俺は敏感に反応してしまった。

「1番はやっぱエルクのやつじゃね？」

「そうだね、天才の考えることはわからねえよ」

まあそりゃそうだな…

二人の意見に心の中で納得したが次の瞬間俺は二人の言葉に耳を疑った。

「まあ馬鹿な天才とあのむかつく東洋人がいなくなってせいぜいするぜ強いからって調子乗った罰だぜ」

「ちげえね！

確かレイって言ったけな？…ありや偽善もいいところだ。

ああいう奴はくたばれば…」

そこでファラドは喋るのを止めた。

それは俺が二人を殴り黙らしたからだ。
だがそんなに俺の怒りは治まらず続けて蹴りをいれた。

「テメツ!？」

いきなり何すんだ!？」

リユークは自分がやられる理由も気づかず俺に怒鳴る。
それに俺は更なる怒りを覚えた。

「お前らそうやって影でこそそ吠えてんじゃねえ!!
最低だよお前ら!!」

闘気剥き出しで言う俺に二人は少し後退りをした。
こんな奴らに俺は落ちこぼれて言われてたのか……考えれば考える程苛立ってくる。

「次そんなこと言ったら俺が二度と喋れないようにしてやるからな
……」

俺はそれだけ言ってその場を去った。
視線が痛いのもあったが何よりあいつら二人と同じ空間にいるのが
耐えられなかったからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4102h/>

旋律を奏でる蒼天

2010年10月9日21時13分発行